

世界選手権エペ無意欲敗戦について

本年7月にハンガリー、ブタペストで実施された世界選手権の男子エペ団体戦日本対イスラエル戦において、同点（35対35）で日本が敗退するという事象がありましたので、以下の通り、経緯についてご説明させていただきます。

2018年のFIE総会での決定を受けて、昨年末からルールが改正され、試合の進行を遅らせる行為には特殊なペナルティ（その試合だけに適用されるペナルティ、Pイエロー Pレッド Pブラックが与えられる）が科せられることとなりました。

当該試合において、日本チームは同点の場合両チームにPブラックが出て、その時点でランキングが高い方が勝ちとするルールが適用されると解釈していました。しかしながら、もう一つのルールとして、Pブラックが科せられた時点で、まずはその選手がその試合について出場停止となり、交代出来るリザーブの選手がいれば、交代選手が出て試合が継続されるというルールがあります。実際には、この後者のルールが先に適用されることから、日本は交代選手を使い切ってしまったので、その時点で負けが確定しました。先方も交代選手がいなければ、ランキングが高い日本の勝ちとなっていました。

日本は、このルールの解釈について、十分な周知徹底が行われていませんでした。このルール解釈の不徹底の責任は、選手を統括する協会（強化本部）にあり、真摯に受けとめております。近年ルールは頻繁に変更されており、オリンピックにおいても、新ルールが適用されることから、今一度、ルール変更の解釈について確認し、選手・コーチへの徹底を確実に致します。

強化本部